様式3

学校番号 43

令和5年度　学校評価書　（計画段階・実施段階）

その1

福岡県立筑紫丘高等学校

自己評価

学校経営計画（4月）

学校運営方針	○豊かな心と創造力に富み、世界に貢献できる人材を育成する。 ○生徒が自ら考え、判断し、行動し、さまざまな体験から多くを学ぶ指導をすべての教育活動で実践する。		評価（総合）
昨年度の成果と課題	年度重点目標	具体的目標	
昨年度は新教育課程に即した教育活動を円滑に展開することができた。今後も実践を通して検証を行い、適切な運用の実現と授業改善を図っていく。また、ICT機器の活用と探究活動の充実に取り組み、主体的・対話的で深い学びを推進することで課題発見・解決能力を高めることができた。今後は総合的な探究の時間の内容をさらに充実・発展させて探究活動の深化を図る。成人として社会に送り出すにあたり、社会の発展に主体的に寄与する自覚と責任ある態度を養う。	【知性】 高い学力と、それを活用して課題を解決する力、新たなものを創造する力を育む。	(1)新しい時代にふさわしい教育内容・教育方法を探究・創造し、持続可能な社会の形成・発展に寄与する態度を育成する。 (2)言語活動を一層充実させ、あわせて思考力・判断力・表現力を育成することで、他者との協働性を養う。 (3)ICT機器の効果的な活用を図り、個別最適な学びと協働的な学びの実践と研究を推進する。	
	【社会性】 集団や社会の一員としての望ましい態度や行動の在り方を身に付けさせる。	(1)社会の一員としての自覚と責任を身につけると共に、集団の規律やルールを遵守する態度を育てる。 (2)授業をはじめ、部活動、学校行事等における他者との対話や活動を充実・深化させることで、健やかな心と身体を育成する。 (3)多様な人権課題を察知する力と、その解決に向けて実践的な行動を起こす力を育成する。	
	【気概】 自らの可能性を高め、挑戦する気概をもち、社会の発展に貢献する高い志を持たせる。	(1)様々な実体験を通して自分の個性を理解し伸長させることにより、キャリアプランニング能力の形成を促す。 (2)難しい状況にあっても互いを高め合い、困難を克服することで、世界にはばたく力を身につけさせる。 (3)持続可能な社会の形成に参画し、自己の夢の実現とともに世のため人のために力を尽くす志を育成する。	

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価（3月）			次年度の主な課題
学力の向上	○高い学力と、それを活用して課題を解決する力、新たなものを創造する力の育成	学力の向上・定着につながる考査の運用及び事前から事後までを含めた指導の徹底を図る。				
		新教育課程や大学入試制度改革等への対応を見通した類型と指導方法の研究を進める。				
	○主体的な学習や他者との協働による思考力・判断力・表現力の育成	主体的・対話的で深い学びのある授業、ICT機器を活用した授業及び3観点での評価を実施する。				
		生活実態調査、出席統計など全職員で情報を共有し、きめ細やかな指導の徹底を図る。				
	○自らの可能性を高め、挑戦する気概をもち社会の発展に貢献する高い志の涵養	総合的な探究の時間の内容・評価の検証を行い、更に充実した探究活動を推進する。				
		実用性の高いシラバスの作成・配付及び実際の授業進度との点検・修正を行う。				
		年間指導計画と実際の授業実施の状況を検証し、授業計画へフィードバックするなど授業の充実を進める。				
	○理数教育の充実	「高校生科学技術コンテスト」や「QFC－SP（九州大学未来創成科学者育成プロジェクト）」等への積極的参加を促進する。				
		理数科独自の研修やセミナー、講演会等の更なる充実を図り、生徒の内発的動機を喚起する。				
生徒の健全育成	○集団や社会の一員としての自覚と責任の育成	さわやかな挨拶と端正な身だしなみ、マナーや交通安全指導を徹底する。また、生徒の主体的清掃活動を促す。				
		いじめに対する認識を確認し、SNSを含めた生徒の動向を観察しながら、些細な兆候を見逃すことなく、いじめの早期発見に努め安全・安心な教育環境を確立する。				
		生徒の自主的な活動を奨励し、生徒会活動の活性化を図る。また、主体的なリーダー・フォロワーの育成を図る。				
		生徒が将来社会の一員として健全に社会参画できるよう、主権者教育の充実を図るとともに、自ら考え行動する集団の育成とモラル向上を図る。				
	○協働の喜び、達成感・連帯感の醸成	「筑高三大行事」の運営を通してリーダーシップ、フォロワーシップを育成しながら、組織の在り方を学ばせる。また、学んだこと、経験したことを日常の学校生活に反映させる指導の				
		部活動集会・部長会議を活用し、部活動生の意識向上につなげ、部活動を奨励する。				
	○生徒理解の深化	スクールカウンセリング、面談ウイーク、丘の上ほっとサロン等の教育相談体制を充実させ、生徒の心のサポートを行う。				
		生徒サポート委員会や学年会で生徒の状況を把握し、生徒を深く理解し、情報を共有して指導に当たることで不適応傾向の早期発見に努める。				
		特別の支援を要する生徒への「合理的配慮」を推進し、指導体制を整えるとともに、保護者と連携し「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」を作成するとともに、教員間の迅速な				
	○健康安全教育の充実	健康診断、身体測定、体力測定のスムーズな運営と精度を向上させる。				
		心肺蘇生法、AED、アレルギー（エピペン含）研修を実施する。				
進路指導の充実	○主体的な学習を促すための進路指導計画の継続的改善	3年間を見通した学校の進路指導計画をもとに、模擬試験等の結果分析や生徒の学力実態、志望動向を把握し、生徒及び保護者が納得する進路実現を支援する。				
		生徒の多様な進路希望に対応した、類型別の課外、進路別二次対策講座を充実させる。また、難関大学の総合型選抜や学校推薦型選抜入試に対応した指導を行う。				
	○進路情報の提供による学習意欲の喚起	大学入試制度改革に関する情報の収集と提供を行い、生徒が広い視野を持って進路選択ができるよう進路指導を徹底するとともに、個人面談を中心としたサポート体制を整える。				
		難関大学を志望する生徒に対する情報提供等でサポート体制を充実させ、難関大志願者の増加を図る。				
	○社会に貢献する高い志・グローバルな視野をもつ人材の育成	社会人講演会や医学部・難関大学進学講座の一層の充実を図り、高い志をもつ大切さを喚起する。				
		高大連携事業、外部講座及びインターンシップへの参加を促し、グローバルな視野をもつ人材の育成を図る。				
	○思考力・判断力・表現力や主体的に学ぶ態度の育成	一般公募の小論文コンクール等に積極的に出品させる中で、添削指導を充実させて言語活動の充実を図る。				
		課題研究活動を中心に、社会及び学術的な課題を探究的に解決する態度を身につけさせる。				

学校関係者評価

評価（総合）	
	自己評価は A ： 適切である B ： 概ね適切である C ： やや不適切である D ： 不適切である

項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見

その2

広報活動の充実	○中学生とその保護者への積極的広報の推進	中学校、学習塾への広報活動を充実させると共に、理数科の広報のため第4・6学区の中学校訪問を積極的に実施する。						
		中学生やその保護者、地域の人々に本校の魅力を的確に伝えるために、「中学生の体験入学」の内容を改善充実させるとともに、小学生に対する広報活動にも広げていく。						
	○効果的な広報活動の展開	学校案内、広報資料、広報用ビデオ、ホームページでの最新情報提供等の内容を充実させ、本校の特色や魅力を外部に発信する。SNSの利用など、効果的な情報発信を行って						
		本校の活性化のために、学校評議員や学校関係者評価委員に対し、積極的に学校行事への参加を要請するなどして、本校の教育活動に対しての意見を求めていく。						
図書活動の充実	○主体的な読書活動の推進と図書館の利用拡大	図書館オリエンテーションや読書週間を充実させる。また、読書案内「筑高の100冊」を活用し、生徒の主体的な読書活動や積極的な図書館利用を図る。						
		図書委員会の活性化により、読書環境の整備・魅力ある図書館運営を図る。						
	○情操教育の充実	芸術鑑賞を実施することにより、豊かな感性と多様な文化に親しむ態度を育成する。						
	○学校文化の継承	生徒の主体的活動と学校独自の文化や歴史の記録として校誌「筑紫丘」の計画的作成を行う。ICTを活用し、編集の効率化を図る。						
事務室運営	○経営参加型の事務室業務の推進	生徒・保護者のニーズに応えるため、より効果的な予算の編成・執行を行う。						
		各分掌と情報の共有化を図り、教員との緊密な連携によって学校経営目標を実現するための事務処理を行う。						
		生徒・保護者に対して、より分かりやすい内容で的確に情報発信する。						

自己評価及び学校関係者評価を踏まえた今後の改善策	評価項目以外のものに関する意見